

柏木教会月報

9月号

東京都新宿区北新宿3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

私を何者だと問うのか

マタイによる福音書一六章一三～二〇節

牧師 大浦 勝

イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

(一五)一六節)

キリストはガリラヤ湖北方のフィリピ・カイサリア地方に行かれたとき、弟子たちに「人々は、人の子のことを行はれども、何者だと言つてゐるか」とお尋ねになり(一三節)、さらには「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と続けてお尋ねになった(一五節)。「あなたがた」は原文のギリシャ語では大変強調されている。キリストは他の人々の意見ではなく、彼ら自身の意見を求め、キリストについての自分の立場を明確にするようにお求めになつたのである。ペトロは弟子たちを代表して、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答える(一六節)。ペトロの信仰告白と呼ばれる出来事である。

信仰とはこのように、「あなたがたはわたしを何者だと言つてゐるか」とのキリストの問いかけに、ペトロと共に「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えることである。信仰は問い合わせられることによって明確になつて行き、口で答えることによって確かにされる。「人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです」とバウ

ロが言つているとおりである(ローマ一〇・一〇)。キリストは今もみ言葉を通して、「あなたはわたしを何者だと言つてゐるか」と問い合わせておられる。いつたいわたしにとって歩んでいるのであろうか。わたしたちは今もこの問い合わせの前に立つてゐる。

キリストを偉大な預言者の一人だと言う多くの人々の意見と、ペトロの信仰告白との間には、大きな違いがある。預言者はこれからも現れるかもしれない。いや、さらには偉大な預言者が現れるかもしれない。もしそうであれば、わたしたちは、その時を待つべきであろう。しかし、ペトロが告白したように、生ける神が救い主としてご自身を現されたとするならば、わたしたちのただ中すでに救いが来たのであり、この方が唯一の救い主である。他に待つことはできないし、待つ必要もない。わたしたちがなお待つとすれば、それはこの救い主が再びお出でになつて、みわざを完成されるのを待つのである。聖書を読み、その教えに親しみ、キリストを人生の模範としている人は多い。しかし、キリストを模範とすることと救い主と信じることの間には、大きな違いがある。キリストはペトロの信仰告白に続けて、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負つて、わたしに従いなさい」と教えておられる(一四節)。キリストを信じるとは、単にキリストを自分の生き方の参考にすることではなく、自分の内にキリストを迎え、それによつて、キリストがわたしたちの生の中心となり、わたしたちの生き方が変えられていくということである。